

教職実践演習の実践的展開と教育可能性 — SNS の情報リテラシー指導を中心に—

大野 久

この論考は、著者が担当した2014年度の教職実践演習の展開について報告するとともに、その方法内容についてその教育的意味と教育可能性について論じるものである。

1. 課題の設定

2014年度教育実践演習の初回は、履修学生がすでに体験してきた教育実習に関する再検討のためのグループワークからスタートした。グループワークの課題は、「実習中、自分の試みで成功したと思われること」、「実習中自分の試みで失敗したと思われること」、「現代の中学校、高等学校における教育上、困難な問題」、さらに「自らが将来教員として関わる場合、困難を感じる問題」であった。

この中で「自らが将来教員として関わる場合、困難を感じる問題」に関しては、主に以下の課題が話し合われた。

- a. 効率重視の事業に関する疑問
- b. 学力差の対応の困難さ
- c. 受験中心、進学率重視の教育に対する疑問
- d. 携帯電話に関する指導、SNS、情報リテラシーの指導
- e. 服装指導
- f. 部活指導、特に顧問教員についての問題
- g. 教員の多忙さ
- h. 生徒を叱ることの困難さ

2. 携帯電話に関する指導、SNS、情報リテラ

シーの指導に関する展開

本稿では特に、上記の中から携帯電話に関する指導、SNS、情報リテラシーの指導を取り上げ、考察したい。

授業は、各履修学生が実習中、自らが経験したこと、見聞したことと、それに関する情報の収集、問題の所在、考える対応策などを事前に調べ、1グループ3、4名のグループワークと、それに基づいたゼミの全体討議で構成された。

① SNS (social networking service) の定義

検討の結果、SNSは以下のように定義された。インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク(ソーシャル・ネットワーク)を構築するサービスのことである。代表的なSNSとして、日本ではmixi、GREE、Mobage、Ameba、世界ではFacebook、Twitter、LINEなどがある。ちなみに、学生たちの使用頻度としてはLINEが最も多く、8割以上の学生が日常的に使用していた。

② 学校におけるSNSに関する問題

教育実習中、学生が指導教員から指導の中で示された事例に以下のようなものがあった。「個人の特定が可能な形で、『にちゃんねる』に生徒の問題行動がアップされた」、「芸能人への脅迫を生徒が書き込み、ファンに生徒の個人情報アップされた」。また、学生が指導場の問題があるのではないかと疑問を感じた事例に「教

員が生徒のツイッターを監視し、問題が起こりそうな場合、職員会議で報告している」などがあった。

その他、中学校高等学校で生徒に指導が必要と考えられる一般的な問題として、以下のような事例が報告された。

a. LINE によるいじめ。仲間外し

例えば、LINE による数名のグループを作り、その中の特定の人物を外した別のラインのグループの中ではずされた人物の悪口を書き込み、共有する。

b. 裏サイト

学校に関する批判、悪口を共有するサイトを作る。

c. 複数の LINE、過度な依存

複数の LINE のグループに所属し、すべての書き込みを読み、返信しないと安心できない。すべてのグループが終了するまで、就寝できない。

d. 既読スルー

メッセージを読んでも(既読状態)、返信しないこと。多くの人間関係のトラブルの原因となっている。既読スルーを恐れるため、上述の過度な依存に用いることが多い。

e. 写真のタグ付けによるトラブル

Facebook では、アップロードされた写真に人物を特定する「タグ付け」が可能である。「タグ付け」された写真は、公開範囲に広く配布されるため、顔写真により人物が特定される。さらに写真には初期設定により日付や位置情報も添付されているため、いつどこで誰がどこにいたかが特定できる。こうしてプライベートな情報が流出してしまうために起

こる対人関係のトラブルも多い。

f. 写真が消去できない

一度アップロードされた写真は、多くの場合拡散し、複数のサーバーに保存されてしまうため、完全には消去できず、検索することが可能になる。プライベートな写真をアップロードした場合、その後の人間関係に支障をきたす場合もある。

g. SNS 疲れ

Facebook など、アップロードする情報は、多くの場合自己顕示のための情報となり、それを送り付けられる友人は、人の自慢話ばかりを聞かされることになり、対人関係に疲れてしまう。これを一般に「SNS 疲れ」と呼ぶ。また一方でアップロードする側も自己顕示に足る情報を常に集める必要があり、そのために疲れてしまう場合もある。

h. 裸体写真の送付 リベンジポルノ

異性間で交際している場合、自らの裸体写真を相手の求めに応じて送付する場合がある。交際が破局した後、相手に報復する意図を持って、裸体写真を不特定多数に送る、もしくは不特定多数が閲覧できるサイトにアップロードするケースもある。これを「リベンジポルノ」と呼ぶ。

3. 中学校、高等学校でどのように指導すべきか

想定されるこうした問題について、中学校、高等学校でどのように指導すべきか学生間で話し合い、以下のような指導に関する提案があった。

a. 匿名で SNS に書き込んでも専門的知識を持

つ読者によって、書き込んだ人物が特定されることが多い。したがって、匿名だからといって軽率な書き込みは避けるべきである。

- b. 特に匿名性に隠れて、他者を誹謗中傷する書き込みはしない。
- c. 写真をアップする際には写っている人の許可を取る。写真に位置情報が入っていないかなど注意する（位置情報から個人情報が漏洩する場合ある）。
- d. 掲示板への書き込みは、多くの場合、身近な人間のみが読むことを想定して書き込むことが多いが、世界中で閲覧可能なことが多く（公開範囲をつけても簡単に設定を解除することが可能）、世界に発信している自覚を持つ。
- e. メール、書き込みの文章の表現不足、言葉足らずによって、誤解を招いたり、トラブルの原因となることも多い。一度書いた文章は良く推敲してから、アップロードする。
- f. 一度書き込んだ内容、アップロードした写真は、ほかのサーバーに拡散し、保存されてしまうと、完全に削除することは不可能であり、生涯ついて回ることを自覚するべきである。
- g. LINE のグループに過度に依存しない。携帯を開かない時間を決める等の自覚的抑制が必要である。
- h. 他者のプライバシー、個人情報の漏洩には、十分な注意をする。
- i. 上述の内容の指導法として有効な方法は、HP 作りを通して情報発信の仕方を教える。学級通信やお知らせの配信などが提案された。

4. 演習の学生への教育的効果

こうした内容についての学生のグループワーク、全体討議などを通じての学生の感想は、「自分自身も知らなかった内容に気づかされた」、「問題の重大さに改めて気づかされた」、「中学生、高校生はさらに無自覚に SNS を使っているだろう。指導の、情報伝達の必要性を強く感じた」、「SNS の進歩に教育がついていくのは大変だ」などであった。事例、問題の所在、解決の方策などについての意見交換は、学生自身の知識の増加、自覚の高まり、将来の教育者としての自覚など教育効果は大きいものであった。特に、こうした社会が未経験の現代的問題に対する情報収集、実態把握、対策の検討は、学生たちの問題解決能力を高める方法として大変有効であることが明らかになった。